



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2027 年 3 月期 第 1Q 決算説明会

2026 年 8 月 7 日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社		
[企業 ID]	4078		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2027 年 3 月期 第 1Q 決算説明会		
[決算期]	2027 年度 第 1 四半期		
[日程]	2026 年 8 月 7 日		
[ページ数]	15		
[時間]	15:30 – 15:50 (合計：20 分、登壇：11 分、質疑応答：9 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	46 名		
[登壇者]	1 名 取締役執行役員 大釜 信治（以下、大釜）		

登壇

司会：定刻となりましたので、堺化学工業株式会社 2027 年 3 月期第 1 四半期決算説明会を開催いたします。本日はお忙しい中お時間を頂戴し、誠にありがとうございます。

本説明会は、ウェブ配信のみの開催となっておりますので、ご承知おきください。本日の予定、まず担当役員の大釜よりご説明させていただいた後、皆様からのご質問をお受けいたします。

また、ご説明させていただく資料については、決算発表と同日開催ということもあり、事前にお送りしておりませんので、画面をご覧くださいながらお聞きいただければと思います。

なお、先ほど弊社ホームページでも同じ資料を開示しておりますので、あわせてご参照ください。それでは早速、決算のご説明に入らせていただきます。大釜部長、お願いいたします。

大釜：皆様こんにちは。堺化学 IR 担当の大釜でございます。

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございます。堺化学工業株式会社 2027 年 3 月期第 1 四半期の決算について説明いたします。

本説明のポイント

27.3期 1Q 実績	➤ 売上高に関して 酸化チタン事業終了影響を、旺盛な需要が続くAIサーバー関連で好調な電子材料事業や その他事業でカバーし、前年同期比 +6.6%の増収となった。 ➤ 営業利益に関して 酸化チタン事業終了による酸化チタンの販売量の減少や、 有機化学品/医薬品原薬中間体での前期1Qに売上が集中していたことの反動減により 前年同期比 ▲10.5%の減益となった。 ➤ 純利益に関して 期初から予定していた固定資産売却益（約10億円）を当期で計上したため、 前年同期比 +56.0%の増益となった。
27.3期 計画	➤ 上期及び通期業績計画は前回（5月13日）公表値を据え置く。電子材料事業でのAIサーバー需要は好調継続、第2四半期以降の需要動向を見極めたい。
株主 還元	➤ 配当予想については、前回（5月13日）公表値を据え置く。
その他	➤ CB（新株予約権付社債）転換により新株1,519千株を発行、同時に1株当たりの株主価値及び資本効率の向上を図るため70億円/1,520千株を上限に自己株式取得を実施中。 ➤ IAパートナーズとの業務提携については、2026年5月で終了。 ➤ 特別転進支援プログラムを実施。
 SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.	

2

本説明のポイントを、このスライドに記載をしております。

まず、2027年3月期第1四半期の実績でございます。売上高は、酸化チタン事業終了の影響を、旺盛な需要が続くAIサーバー関連で好調な電子材料事業やその他事業でカバーし、前年同期比で増収となった一方、営業利益は、酸化チタン事業終了による酸化チタンの販売数量の減少や、有機化学品の医薬品原薬中間体が前年第1四半期に売上が集中していたことの反動減の影響により、前年同期比で減益となりました。

純利益に関して、期初から予定をしていた固定資産、これは処分場でございますが、この譲渡益を当期で計上したため、前年同期比で増益となりました。

2027年3月期の上期および通期業績計画は、前回5月13日公表値を据え置いております。

ただ、電子材料事業でのAIサーバー需要は好調を継続しており、第2四半期以降の需要動向を見極めていきたいと考えております。配当予想については、前回公表値を据え置いております。

その他のトピックスとしまして、CB、新株予約権付社債の転換により、新株 151 万 9,000 株を発行し、同時に、1 株当たりの株主価値および資本効率の向上を図るため、70 億円、152 万株を上限に、自己株式取得を実施中でございます。

また、IA パートナースとの業務提携については、2026 年 5 月で終了しております。そして、特別転進支援プログラムを実施いたしました。

2027年3月期 1Q決算サマリー

● 前年同期比（売上高：+6.6% ／ 営業利益：▲10.5%）

・売上高

→ 酸化チタン事業終了に伴う販売量の減少を電子材料事業やその他事業中心にカバーし、増収となった。

・営業利益

→ 酸化チタン事業終了に伴う酸化チタンの販売量の減少、
前期 1Q に売上が集中していた有機化学品/医薬品原薬中間体の反動減により、減益となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が堅調に推移 AIサーバー関連好調に推移 車載関連も堅調に推移	・中国経済の長引く低迷 ・タイ経済の低迷 ・国内建材関連の需要低迷 ・日焼け止め市場の流行の変化 *有機系から無機系素材への シフトの鈍化	・価格改定の実施 ・拠点集約完了(触媒)	・操業度の低下 (チタン事業の終了)



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

4

次に、2027 年 3 月期第 1 四半期決算サマリーを説明します。

前年同期比で売上高は、酸化チタン事業終了に伴う販売数量減少を、電子材料事業やその他事業を中心にカバーし、6.6%の増収となりました。

営業利益は、酸化チタン事業終了に伴う酸化チタンの販売数量の減少、前期第 1 四半期に売上が集中していた有機化学品の医薬品原薬中間体の反動減により、マイナス 10.5%の減益となりました。

2027年3月期 1Q決算業績概要（前年同期比）

	26.3 1Q実		27.3 1Q実		前年同期比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	20,136	—	21,466	—	1,330	6.6
営業利益	1,904	9.5	1,705	7.9	▲199	▲10.5
経常利益	1,927	9.6	1,879	8.8	▲48	▲2.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,282	6.4	2,000	9.3	718	56.0
EPS	79.66		130.66		—	

前年同期比	
売上高	酸化チタン事業終了に伴う販売量の減少を、電子材料関連やその他事業を中心にカバーし、6.6%の増収を確保した。 ✓ 電子材料：AIサーバー需要が好調に推移
営業利益	酸化チタン事業終了影響、有機化学品事業の減少により、10.5%の減益となった。 ✓ 酸化チタン：事業終了影響による販売量の減少 ✓ 有機化学品：前期1Qに売上が集中していた医薬品原薬中間体の反動減（チオ製品は堅調に推移）
純利益	固定資産譲渡益(2026.3.24 開示、約10億円) により、56%の増益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

5

2027年3月期第1四半期の売上高は214億6,600万円、営業利益は17億500万円、経常利益は18億7,900万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産譲渡益を計上したことにより、20億円の前期比56%の増益となりました。

CB（新株予約権付社債）転換及び自己株式取得について

- 自己株式取得は1株当たりの株主価値および資本効率の向上を図ることが主な目的
- 5月13日開示の株主還元計画（2027年3月期年間配当予想160円/株）は変更なし



① CB転換の概要

累計転換額	30億円（転換率100%）
転換株式数	1,518,987株（発行済比9.5%）
転換後発行済株式	17,518,987株
CB発行時期	2023年6月
権利行使時の払込金額	1,975円/株

② 自己株式取得の概要と進捗

取得価額上限	70億円
取得株式数上限	1,520,000株 （発行済(自己株除く)比9.9%）
取得期間	2026年7月1日～12月31日
取得方法	市場買付（取得完了後、全株消却予定）
7/31時点の進捗	24億円 596,100株



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

6

第1四半期のトピックスとして、CBの転換および自己株式取得を実施しております。CB転換の概要は、既に公表しております通り、151万9,000株を発行し、転換後の発行済株式数は1,751万9,000株となりました。

同時に、1株当たりの株主価値および資本効率の向上を図ることを目的として、70億円、152万株を上限とした自己株式取得を実施中です。

7月末時点での進捗は、取得金額は約24億円、取得株式数は59万6,100株となっております。

IAパートナーズ（株）との業務提携終了について

- 経緯・目的、業務提携終了
 - ✓ 経緯と目的：2023年5月、中期経営計画策定支援（ポートフォリオ戦略・M&A、財務・IR戦略）を目的に業務提携および第三者割当により資金調達を実施
 - ✓ 業務提携は2026年5月に終了
- 業務提携の成果（2026年3月末時点）
 - ✓ 事業ポートフォリオ変革と収益体質の改善（顔料級酸化チタン事業終了、効率化検討事業の収益構造改善を図り安定事業に転換、PDCA管理により事業計画の精度向上）
 - ✓ 財務戦略の策定と実行（CCC短縮・遊休資産売却による資産効率改善とCF創出、キャピタルアロケーションの明示、資本コストを意識した経営の実践）
 - ✓ 中計期間中（2025年3月期～2027年3月期）の総括は2027年5月を予定
- 資金調達に際し割当した新株予約権付社債（CB）と新株予約権
 - ✓ CBは2026年7月に全額転換済み
 - ✓ 新株予約権*はIAPにより保有継続（資金使途はM&Aを通じた事業拡大、現時点で開示を要する案件なし）

*発行価額 約35百万円、権利行使目的となる株数 1,012,600株、行使価額 1,975円/株、行使期限 2027年12月31日



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

7

先ほどの CB 発行は、IA パートナーズとの業務提携と併せて実施したのですが、この業務提携について改めて説明させていただきます。

2023 年 5 月に、中期経営計画の策定支援などを目的として、業務提携および第三者割当により資金調達を実施しました。業務提携は 2026 年 5 月で終了をしております。

2026 年 3 月末時点の業務提携の成果ですが、事業ポートフォリオ変革と収益体質の改善、財務戦略の策定と実行などが挙げられます。中計期間中の総括は、来年 2027 年 5 月を予定しております。

資金調達に際し、割り当てた CB と新株予約権につきましては、CB は先ほど申しあげました通り、全額転換済みです。新株予約権は、IA パートナーズ側が保有を継続しております。

2027年3月期業績予想

- 上期及び通期業績計画は前回（5月13日）公表値を据え置く。
 ＊電子材料事業でのAIサーバー需要は好調継続を予想も、第2四半期以降の需要動向を注視する。

	27.3 1Q実		27.3						
	通期実績		上期予想		下期予想		通期計画		
	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	前期比 %
売上高	21,466	—	41,700	—	40,000	—	81,700	—	0.3
営業利益	1,705	7.9	3,100	7.4	2,900	7.3	6,000	7.3	▲7.0
経常利益	1,879	8.8	3,200	7.7	2,900	7.3	6,100	7.5	▲6.8
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,000	9.3	2,800	6.7	1,600	4.0	4,400	5.4	59.9

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場はAI関連が好調に推移 ・タイ経済が底打ち	・中国経済の長引く低迷 ・日焼け止め市場の流行の変化 ＊有機系から無機系素材へのシフトの鈍化	・販売構成向上(電子材料)	・固定費負担割合増加

＊米国相互関税政策や中東情勢による影響は予測が困難なため、計画値には織り込んでいない。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

9

次に、2027年3月期の業績予想を説明します。

上期および通期業績計画は、前回5月13日の公表値を据え置いております。電子材料事業でのAIサーバー需要は、好調継続を予想しておりますが、第2四半期以降の需要動向を注視してまいります。

セグメント別実績（27.3期 1Q 売上高・営業利益）

	26.3期 1Q 実績			27.3期 1Q 実績			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	2,870	476	16.6	3,364	581	17.3	494	17.2	105	22.1
化粧品材料	337	▲63	▲18.7	534	▲105	▲19.7	197	58.5	▲42	—
有機化学品	2,121	459	21.6	1,922	256	13.3	▲199	▲9.4	▲203	▲44.2
衛生材料	1,283	79	6.2	1,428	142	9.9	145	11.3	63	79.7
受託加工	1,596	171	10.7	1,730	231	13.4	134	8.4	60	35.1
酸化チタン 亜鉛製品	2,688	409	15.2	1,866	142	7.6	▲822	▲30.6	▲267	▲65.3
樹脂添加剤	3,012	341	11.3	3,114	322	10.3	102	3.4	▲19	▲5.6
触媒	472	▲3	▲0.6	702	84	12.0	230	48.7	87	—
無機材料	1,341	289	21.6	1,484	303	20.4	143	10.7	14	4.8
医薬事業	2,097	6	0.3	2,107	▲19	▲0.9	10	0.5	▲25	▲416.7
その他	2,313	314	13.6	3,211	448	14.0	898	38.8	134	42.7
全社費用	—	▲574	—	—	▲683	—	—	—	▲109	—
連結	20,136	1,904	9.5	21,466	1,705	7.9	1,330	6.6	▲199	▲10.5



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

11

最後に、2027 年 3 月期第 1 四半期報告セグメントの詳細を説明します。

電子材料は、AI サーバー需要が好調で、車載向けも堅調に推移したことから、増収増益となりました。

化粧品材料は、国内向け販売は低調な一方、海外向け販売は回復をしましたが、酸化チタン事業終了に伴う費用負担増の影響などで、増収減益となりました。

有機化学品は、主要製品は堅調に推移したものの、医薬品原薬中間体は、前年第 1 四半期に出荷が集中した影響もあり、減収減益となりました。

衛生材料は、トレーディングが好調に推移し、フィルム製造ではコストダウンが寄与し、増収増益となりました。

受託加工は、加工顔料が好調に推移し、工程受託を既存品の受託が回復したことから、増収増益となりました。

酸化チタン・亜鉛製品は、亜鉛製品が堅調に推移した一方、顔料級酸化チタン事業終了による販売数量減少の影響が大きく、減収減益となりました。

樹脂添加剤は、国内とベトナムは販売が堅調に推移したものの、タイの経済低迷の影響があり、増収減益となりました。

触媒は、販売量が増加し、生産拠点集約による効果もあり、増収増益となりました。

無機材料は、主力のバリウム製品や開発品が堅調に推移し、増収増益となりました。

医療事業は、医療機器や一般用医薬品が堅調に推移したものの、医療用医薬品の原材料の高騰や、アルロイド G の薬価の引き下げなどがあった影響があり、増収減益となりました。

私からの説明は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑に入らせていただきます。

こちらから順にご指名しますので、会社名とお名前を頂戴した上で、ご質問いただきますようお願いいたします。

また、本説明会については、書き起こしの記録をし、弊社ホームページに記載させていただいております。ご質問いただいた際の会社名、お名前についての記載は伏せさせていただきますが、ご質問いただいた内容については記載されますので、その点ご了承ください。

それではご質問、よろしくお願いいたします。

質問者 1 [Q]：説明資料の 4 ページ目に、内部要因のプラス要因で価格改定の実施とありますが、どのような内容でしょうか。実施したセグメントなど教えてください。電子材料の価格改定は実施したのでしょうか。お願いします。

大釜 [A]：価格改定に関しましては、これは今期に関しては基本的に、ホルムズ海峡、中東情勢の影響によりまして、原材料価格が高騰するということに、実施したとご理解いただければと思います。

そして、いわゆる価格是正に関しましては、今回に関しましてはあまり影響ないとご理解いただければと、これは全セグメントに関してということでご理解いただければと思います。私から以上です。

司会 [M]：以上、ご回答申し上げました。ありがとうございました。

質問者 2 [Q]：お世話になります。1 点だけお願いします。電子材料の AI サーバー向けの需要が好調と書いてあるんですけども、ここの状況をもう少し詳しく教えていただけませんか。よろしくお願いいたします。

大釜 [A]：ありがとうございます。AI サーバー需要が非常に好調だと記載しておりますが、実はわれわれも電子材料のいろいろ製品がございますが、この製品が AI サーバー用だと教えていただいているものはほとんどなくて、われわれの推測ではございますが、ここ 1～2 年、この 1 年ですね、非常に伸びている品番がございます。

例えば昨年度でしたら、前年比で2倍ぐらい増えている品番がございまして、おそらくこれはAIサーバー用途だろうと、われわれとしては推測しているものはございます。

そういう品番に関しましては、引き続き2倍というモメンタムではありませんが、順調にまだ伸びているものがございまして、このモメンタムがまだ引き続き続くという見立てをしております。こういうところが、AIサーバー需要が堅調というか好調で、われわれの製品も伸びていっていると分析をしているとご理解いただければと思います。

質問者 2 [Q]：この好調な品番は、要するに競争力の高い材料ということでよろしいですか。例えば御社のシェアが高いとか。御社の独自の技術が活かされている、そういう材料ということでよろしいですか。

大釜 [A]：そのようにご理解いただいて結構かと思います。われわれの製品の中でもハイエンドのものが比較的このような伸びを示しておりますので、われわれとしては、やはりその辺は差別化できている製品、収益性の高い製品が伸びていっていると、伸びている要因が、差別化できる製品だからというところを認識しております。

質問者 2 [Q]：あと、今後その需要がさらに強くなった場合に、その材料の生産体制には問題ないですか。キャパ的な問題とか、そういったところも問題ないですか。

大釜 [A]：ありがとうございます。これもキャパシティとしてはかなりいっぱいになってきていますので、設備投資、増強に関しては、もうかなり具体的に検討しているというところです。

質問者 2 [M]：なるほど。ありがとうございました。

司会 [M]：どうもありがとうございました。先ほどご質問いただきました方から、追加のご質問をいただいております。

質問者 1 [Q]：先ほど少しお答えいただきましたが、当第1四半期において、中東情勢はどのような影響があったのでしょうか。よろしくお願いします。

大釜 [A]：先ほども少し申し上げましたが、中東情勢の影響でやはり原料に関しましては値上がりしているところでございまして、ここに関しましては、適切に値上げといたしますか、価格転嫁をお願いさせていただいています。

原材料の値上がりに関する原価の増加は確かにあるんですが、その分は価格転嫁でカバーをさせていただいている状況になっているというところです。

それと、調達面に関しましては、非常に調達部門が頑張って奮闘しておりまして、いわゆる玉が切れるというか、物がなくて生産できないという状況では、現時点ではございません。今のところ、そういうリスクというか、調達できなくて物が作れない状況ではないとご理解いただければと思います。以上です。

司会 [M]：以上、お答え申し上げましたが、いかがでしょうか。ありがとうございます。

他にご質問ないようでございますので、本日はこれ以上をもちまして、説明会を終了させていただきます。

本日はご出席賜り、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。失礼いたします。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。